

まちを教科書に、出会いと経験のなかで育む。

公立高校における長期的挑戦

— 地域にでかけて自分を知る。社会と関わる。 —

# 団体概要

## VISION

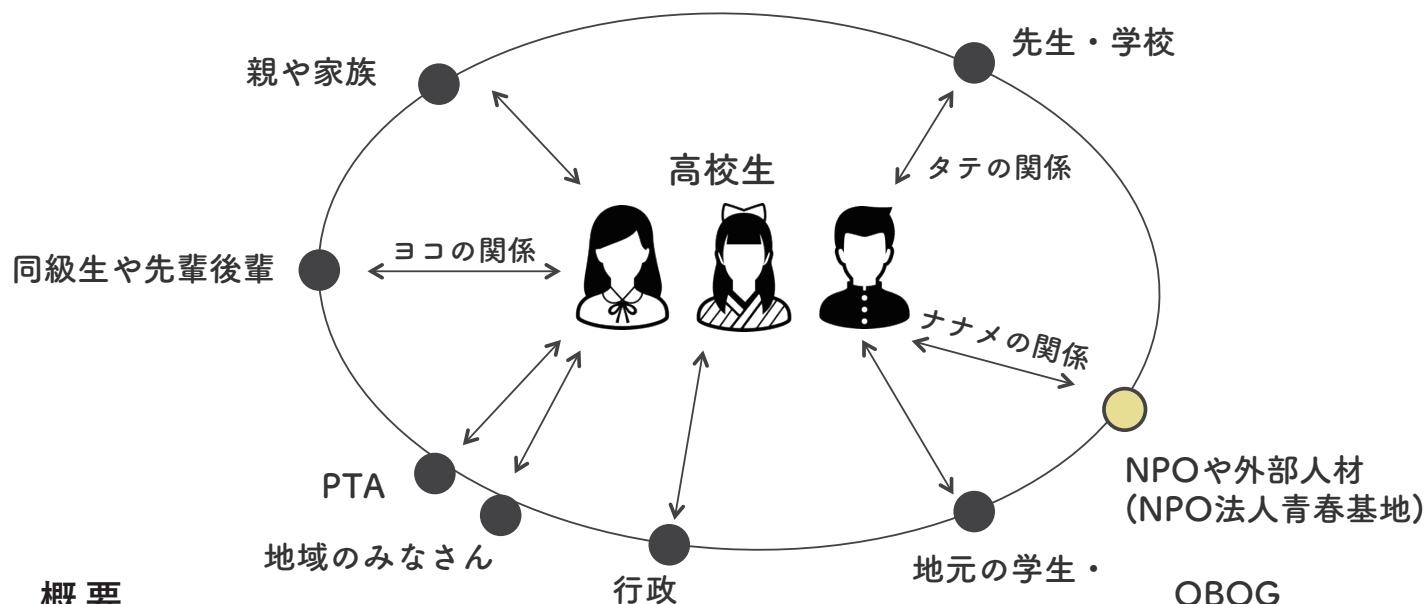
生まれ育った環境をこえて、一人ひとりが想定外の未来をつくる

## MISSION

「想定外の未来をつくる！」をコンセプトにプロジェクト型学習を行い、子ども・若者の好奇心や意欲を喚起し、一人一人が社会や環境の変化を厭わず、主体性をもって社会に参画していくことを目指す。(定款より)

### 学びに携わる当事者たちに”余白”をつくる関係づくり

※当事者とは … 生徒・先生・保護者・地域・応援者・NPOなど



## 概要

設立 : 2015年9月1日(2016年8月29日法人化)

組織 : 特定非営利活動法人

住所 : 東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目33番3号 新宿ネオビル402

会員 : 10名

スタッフ : 20名程度(学生インターン・社会人プロボノ)

拠点 : 首都圏・山梨県富士吉田市・福島県双葉郡広野町

サイト : <http://seishun.co> ウェブマガジン青春基地 : <http://seishun.style>

## メディア掲載

東京新聞朝刊・朝日新聞朝刊・山梨日日新聞

東京 MX テレビ・モーニングクロス

オルタナ S

J-WAVE・JAM THE WORLD

Tokyo Work Design Week 2016 など多数

2016年：社会起業塾イニシアティブ選出(NN生命)  
(主催：NPO法人ETIC.)

2017年：新公益連盟 加盟



## 代表理事

石黒和己 Wako ISHIGURO

1994年愛知県生まれ。2015年、大学3年次にNPO法人青春基地を立ち上げる。中高時代はシャティナー教育という教科書も試験もない自由な環境で過ごし、在学中に学校法人化を経験したことから、日本の学校教育に关心を持つ。学生時代は、文京区立の中高生向け施設「文京区青少年プラザ(通称:b-lab)」の立上げに参画。

慶應義塾大学総合政策学部卒、現在は東京大学教育研究科修士課程。



## 事業概要（2017年度の様子）

### 学校のなかで対話と経験を届ける



## 事業概要（首都圏）

### ウェブマガジン青春基地と放課後の学び場

#### 概要

今年度4月から、学校という生徒たちの日常に根ざした学びづくりを始動。今年度は2つの公立高校において、通年・毎週という長期に渡った授業を担い、出会いや実践を通じたプロジェクト型の学びを届けている。

多様な家庭環境で育ち、多様な進路選択をする生徒たちとじっくり向き合い、一人一人の意欲や好奇心を引き出していく。それぞれが自分なりの生き方にむかって、主体的に未来を拓いていく力を育んでいる。



#### 山梨県立富士北稜高校

富士山の麓、標高800mに位置する。商業、工業、福祉、建築などさまざまな系列からなる総合学科であり、卒業後は過半数が就職する進路多様校である。現状ではまだ地域との繋がりは薄く、自分自身や地元について知らないままに進路選択することが多く、卒業後の転職率は高い。



#### 福島県立ふたば未来学園

2015年春に、東日本大震災と原発の事故を受け、原発周辺の5つの高校が統廃合され、新設された新しい総合学科だ。学力や家庭環境、子どもの貧困、被災など様々な困難を抱えた生徒も多く、一人一人との対話の重要性は非常に高い。

#### データ

実施：毎週2コマ（週1回×年50日）

期間：通年

科目：課題研究（総合学科の必須科目）  
総合的な学習の時間・学校設置科目

実施校：2校

- ・山梨県立富士北稜高校（総合学科）
- ・福島県立ふたば未来学園（総合学科）

#### 概要

首都圏では、ウェブマガジン青春基地をつかった放課後プログラムを開催している。ウェブマガジン青春基地は、一人ひとりの「やってみたい」を後押しするためのプラットフォームであり、挑戦の武器である。読者が中高生であることはもちろん、本プログラムを通じ、書き手も担っている。



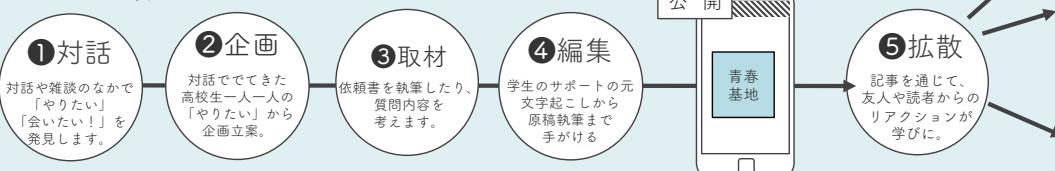
写真：ウェブマガジンの様子

#### 中高生編集部

記事を手がけるのは、「なにかに挑戦したい」という思いで集まった中高生編集部だ。学生のサポートの元、それぞれが会いたい人・やってみたいことから企画を立ち上げ、アポイントや編集まで自らで挑戦。取材を通じて多様な価値観と出会っていく。最近では、取材から発展して生まれたマイプロジェクトにも伴走。

自分で動いてみることで、驚き、好奇心がくすぐられ、時には失敗や、悩みにも直面しながら、たくましくなっていく。

#### <企画の流れ>



## 多様な資源との出会いが育む生徒の成長

### 富士北稜高校 商業科情報系列・課題研究



写真左：職業体験、取材の様子。写真右上：まとめ作業、制作風景。写真右下：発表風景

#### 組織体制

総合企画／運営 (特非)青春基地／(特非)かえる舎

プログラム開発 (特非)青春基地／(特非)かえる舎

学校担当科 商業科情報系列

運営補助 富士吉田地域おこし協力隊

学生（都留文化大学／慶應義塾大学／早稲田大学／東京大学／実践女子大学）／社会人

(特非)かえる舎／(特非)青春基地

武蔵野美術大学生（予定）

富士吉田市役所／富士吉田みんなの貯金箱財団  
富士工業技術支援センター／槇田商店

／SARUYA／BEEK DESIGN／慶應義塾大学  
清水唯一朗研究室／編集者（徳谷柿次郎／松家仁之（予定））／のらもじ／CoCooking／地域のみなさん30名（予定）

(特非)青春基地／デザイナー(wantedly所属)  
山梨日日新聞（1回）

#### 実施スケジュール（年50日×2時間）

2017年	2月	地域ビジネス考える授業（全3回） 生徒が描く将来像を元に講師を依頼
	4月	情報系列課題研究授業開始
	5月	まるまるワークショップ
	6月	街中へフィールドワークを実施（全3回）
	7月	山梨県商業研究発表大会にて経過報告を発表
	9月	まるまるワークショップ
	10月	対象へインタビューや撮影などの企画実践
	11月	編集
	12月	成果物を地域内外へ配布
2018年	2月	学内生徒活動発表会

#### 概要

富士北稜高校では、各系列ごとに「課題研究」という探究学習の時間を毎週設けている。商業科においては、実学としての商業教育を進めていくために、地域との連携を模索していた。2018年度からの本格導入を見据えて、2017年度より外部団体と連携した実践的な学びづくりが開始。3年生30人と、一齊授業ではない相互的な場のなかで、毎週毎週じっくり学んでいく。春学期において、すでに約30名（延べ100名）を超える出会いがあった。

#### 地域を伝えるフリーペーパー制作

変化が激しいこれからの社会においては、情報処理スキルだけでなく、人が必要とする情報を集め、整理して伝える情報編集スキルが求められる。

今回の授業では、一年間かけてフリーペーパーを作成する。フィールドワークを通じて地域を知りながら、生徒が「やってみたいこと」「会いたい人」から企画をたて、取材し、それを編集を行うというものだ。企画の作り方から、デザインや写真などの多角的なワークショップを経て、実際に地域の魅力的な資源と出会うために学校外へと飛び立つ。多くの出会いを経て、地域を見つめた上で生徒は、生まれ育ってきた自分の一番近い場所を再発見し、地域や自分自身に少し誇りが生まれるのではないだろうか。



## 生徒たちの学びの変化

授業や課外活動を通じて、多様な大人と出会っていく生徒たち。  
出会いの中で、自分を見つめる生徒たち。授業の感想の一部をまとめました。

### 授業を通じたクラスメイトや学生との対話

「恥ずかしそうにしてたのは自分だけじゃなかった」  
「友達の知らない一面を知った。普段知らないことが多いんだなと気づいた」  
「皆が皆、色々あるなと思った。」  
「自分の好きを人に伝えるのはすごい恥ずかしいけどたのしい。」  
「自分ではまだよく気づいていないけど、いい所なんだなと思った。」

### 授業に取り組む姿勢

「自分の好きを人に伝えるのはすごい恥ずかしいけどたのしい。」  
これからたくさん取材に出かけると思うけど自分の知りたい！と思ったことをとことん追求したい。とことん追求してすっぱらしいフリーペーパーにしていきたい。」「やりたいことがいっぱいあった」

### 地域のみなさんとの出会いや訪問を通じて

「外部の人の話をもっと聞きたい！」  
「地域のことを考えるのは楽しいなと思った」  
「一つ一つ手作りでかっこよかった。」  
「仕事って色々あるんだな～。」  
「いいと思ったことは頭に叩き込んだ。」  
「織物の良い香りがした。」  
「昔の歴史がつまっていました。」  
「様々な人生をおくった大人の方からお話を聞いて自分もそうなりたいなと思ったり、変わらなくなっちゃいけないと感じた。」



## 活動拠点の概要

### 日本国／中部地方／山梨県／郡内地方／富士吉田市

#### 沿革

古く昔から、富士山信仰を基盤に富士吉田市は発展を遂げてきた。上吉田地区の北口本宮富士浅間神社と、御師の家並みがその面影を伝えている。明治以降は織物産業が近代産業として脚光を浴び、この地域の主たる産業として発展し、富士吉田市はその織物産業を軸として、政治・経済・交通などあらゆる面で富士北麓の中核都市としての役割を果してきた。

日本のシンボルである富士山の麓に広がり、市域の大部分が国立公園内にあり、富士山に抱かれた豊かな自然環境を育んでいる。自然との調和を保ちながら、富士山とともに歩む国際都市として発展している街だ。



#### データ

人口：48228人  
(2017年5月1日現在)

総世帯数：19363世帯  
(2015年国勢調査)

人口密度：396人/km  
標高：650m～3776m  
私鉄：富士急行線  
市長：堀内 茂

#### 特産品

産業：精密機械、水、織物  
飲食：吉田のうどん、水かけ菜

祭り：吉田の火祭り、富士登山競走  
観光：富士山、浅間神社、忠靈塔、富士急

#### 高校

公立：吉田高校、富士北稜高校、ひばりが丘高校  
私立：富士学苑高校





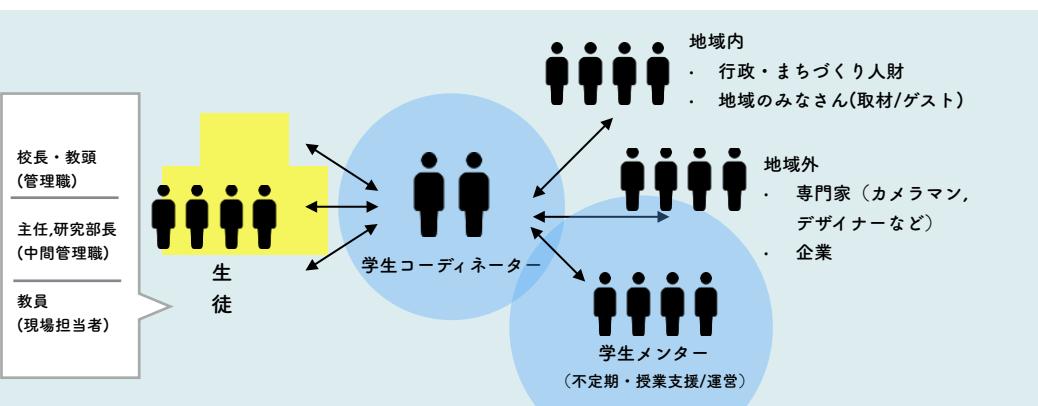
## 学生たちの学びの変化

誰よりも学び、変わりつづけられる人を育てる。

### 概要

教育という分野は、誰もが経験してきたからこそ、自分のモノサシで測りがちだ。たとえば進学校出身者の多くが、進路多様校に行けば、受験をインセンティブに勉強に励む生徒の少なさに驚く。前提としていた教育の固定概念が外れたとき、誰よりもまず自分自身が「なぜ学んできたのか」を問い合わせ直すことになる。

自分のモノサシではなく、多様な価値観を受け入れながら、生徒一人一人と向き合うには、なによりも自分自身の柔軟性や学び続ける姿勢が必要だ。私たちは、ただ現場でのコミュニケーションスキルを上げるだけでなく、生徒や授業の話をするだけでなく、自分自身の価値観の変化や気づきを共有し、変わり続けられる学びのコミュニティづくりを大切にしている。



学生の育成において、大切にしている3つの柱

<実践>  
はじめから  
現場へ

<研修・視察>  
新しい情報や  
新しい気づき

<対話>  
学びあう  
コミュニティづくり

### 実践：現場にいく

百聞は一見に如かず。思春期という多感な時期である生徒たちと信頼関係を結ぶのは簡単なことではない。日々現場に立つことで、生徒たちから新しい挑戦が生まれるため、彼らの成長に寄り添うことのできるコミュニケーションのセンスを磨く。一方的に指示や教えるのではなく、相互的な関係づくりをめざし、日々学びに伴走する。



### 研修・視察："新しい"を学ぶ

現場での気づきだけでなく、最先端の教育に触れるチームを目指す。今年度では、今年新設された岐阜県立図書館みんなの森の吉成館長にお会いしたり、今年で開校4年目となるインターナショナルスクールISAKや岡山県西粟倉村への視察などを行ってきた。

また実施校の周辺地域について、まず私たちが現地の魅力を知るために積極的な交流をはかってきた。たとえば富士吉田市では、富士山の麓に位置するため、行政職員や地場産業の社長さんらとの富士登山に参加。学生自身が多角的に街を知ることで、授業内容も深まっていく。

### 対話：学びあう、議論する

コーディネーター・メンターには、決められたタスクをこなすだけではなく、新しい教育のあり方を探求する力が求められる。仲間との議論を何度も何度も重ねることは、中高時代ではなかなか求められてこなかった自分の意見を伝え、新しい考え方を生み出していく力や、自分自身の課題と向き合う機会になっている。

また、学校の独自文化を吸収し、マルチ・ステイクホルダーと協働する基盤にも、対話の力が求められる。

写真：上から順番に

普段の授業の様子／地元の織物工場TENJINさんの工場を見学／岐阜県立図書館みんなの森視察・館長吉成さんと議論（岐阜市）／富士吉田の地元のみなさんや行政の職員の方々と富士登山／大学生メンターアテンド／開校4年目のUWC ISAK Japan視察（軽井沢）